

MIMIZ

No.11



「函館にいきるモノ」

MIMIZ

CONTENTS

P1 気にしていますか函館野菜の生息地

P7 函館に残らない若者

P14 函館の飲食店事情

P20 まちに寄り添う新しい市電の形

P26 動物との暮らし

P32 編集後記

P33 取材先一覧

気にはしますか？

函館野菜の生息地

そこで、今回は函館ではどのような作物がどのようなところで生産されているのか、どこで購入できるのか、どんな特色があるのかをともに見ていこう。

皆さんは以下の写真のようなものをスーパーマーケットで見かけないだろうか。大学近くのスーパーマーケットにはこのような農家さんから直接仕入れた野菜たちが販売されているが、そのほとんどが道南でも北斗市や七飯町で生産されている。では函館市では生産されているのだろうか？主にスーパーマーケットに陳列されている商品には産地が明記されているがそのほとんどが北海道産とだけ書かれているため北海道のどこから来たものなのかなは明らかではない。



函館の農業

農林水産省北海道農政事務所函館地域拠点の元木正宏様、菊池あや子様、船場大輔様にインタビューさせていただきました。

まずは、函館の農業の実情についてお話しいただきました。

Q 「函館ではどのような作物が育てられているのでしょうか？」

A 「まず、大前提としてやはり函館は農業というよりは漁業の方が盛んではあります。また、農業産出額も道内13位と決して高いとは言えないというのが現状です。収穫されている作物としてはやはり北海道

で盛んに栽培されている馬鈴薯、ニンジンやダイコン、白菜やキャベツなどの野菜類、米、また近年ではサツマイモの栽培が盛んにおこなわれていたり、醸造用ブドウや日本酒をつくる米なども活発に栽培されたりしています。」

Q 「函館のどのようなところで主に作物は栽培されていますか？」

A 「やはり市街地ではなかなか栽培は難しいですね、なので桔梗や湯川のもっと先函館空港の東側で栽培されています。イメージしやすいのは高速道路に沿うような形で農地が広がっています。あとは函館市という広いくくりでいくと、合併しま

したから、恵山方面にもところどころ農地があります。」



函館の今アツい農産物

函館の農業を知ることが出来たところで、では函館で一番アツい農作物とは何なのだろうか。

Q「漁業分野が盛んなイメージのある函館ですが、今まで農業を推し進めた観光などは行つてきたのでしょうか。」

A「なかなかこれといった函館の名産品となるような作物は栽培されておらずなので観光に生かされたものはなかつたように思えます。そ

の中でもさきほど述べたような醸造用ブドウやコメ、サツマイモなどが盛んに栽培されてきているため、これからが楽しみなものではあります。また、JA函館市亀田の隣には

農家さん直送の売り場があるのでそこでは赤かぶの漬物だったり干し芋だったりが販売されています。しかしロッドが小さいためどうしても大規模に販売できないというのが現状です。」

Q「サツマイモや醸造用ブドウのような作物の栽培を開始するに至った理由はどのようなことが考えられますか？」

A「これらの作物はもともと函館、ひいては北海道の気候には合わな

いものであつたのです。しかしながら、昨今の気温上昇や高温化によって作物の生育適性温度が函館でも合うようになってきました。また、

函館は北海道の中でも最南端に位置しており、そうした試験的な意味でも函館で栽培される例はよくあります。近年増えてきている作物が

先に挙げたサツマイモや醸造用ブドウです。また、話は変わりますが、

今までは冷害や塩害に苦しんできた作物は近年の温度上昇によつて高温障害に今度は苦しめられてきています。皆さんがよくスーパーで見るようなトマトなども実はひつそりと品種を変えて高温に耐えられる品種になつてしているのです。」

有機野菜とは？

有機野菜の ススメ

皆さんには函館で野菜を買うときはスーパーで購入することがほとんどだろう。

今回は函館市富岡町にある道南有機の里さんを紹介したいと思う。まずは、有機野菜とJAS認定というのが何であるのか御存じであろうか。以下で紹介したいと思う。

JAS認証とは？

化学肥料を一切使用しない有機農産物を栽培している証明として

認定されるもので、3年以上農薬を使用しないことが条件として設定されているため、一度でも農薬を使用した土地で次年度に農薬を使用しなくとも3年以上は有機栽培とは認められない。

道南有機の里さんでは100%有機野菜を販売している。その様子と筆者が実際に買った野菜を次ページで紹介していく。



実際に売ら れている野 菜たち

道南有機の里さんで栽培されている野菜は以下の写真にあるようなアスパラガスやニンニク、レタスやワサビ菜、大葉など様々な種類があり、いずれの野菜も非常に大きくみずみずしいのが特徴だ。特にニンニクときゅうり、ビーツの大きさには驚いた。

筆者も実際にきゅうりとミック
ス野菜を購入した。有機野菜という

こともあつてやはり形が不ぞろいになつたり虫食いが多くなつたりしてしまふという。しかしながら、今回購入した野菜はどれもみずみずしく食べた後には、お肉を食べたような満足感があつた。

今回はミックスサラダときゅうりを購入させていただいたが、他にも道南卵を使用したマヨネーズや黒豆など多くの興味を引くような生鮮食品や加工品があつた。心からもう一度来店したいと思えるようない度足を運んで日々の食事に少しの彩を添えてみてはいかがだろうか。



おわりに

ここまで記事を「ご覧」いただきありがとうございました。

この記事を読んだ皆さんが次にスーパーの生鮮食品コーナーで野菜を見たときに産地を気にして、野菜に少しでも向き合つてくれたならうれしいです。

お忙しい中快く取材を受けてくれださった農林水産省北海道農政事務所函館地域拠点の元木様、菊池様、船場様、そして急な訪問ではありましたが、快く質問にお答えください、

有機野菜のすばらしさと熱意をお伝えいただいた道南有機の里の方々に心からの感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。

今後の展望としては函館で農業を営んでいる農家さんへ実際に取材に赴き、函館で農業を営もうと考えたきっかけであったり、その大変さなどなど様々をお聞きしてまとめていければと考えています。特に函館だけでなく北海道全体で盛んに栽培されている馬鈴薯や近年栽培されつつあるサツマイモや醸造用ブドウにもフォーカスしていくらかと思っていますので、次号に乞うご期待ください！



函館に残らない若者

高橋
羚
山田
敬汰

はじめに

私たちは、函館における持続可能性を考えるにあたって、人口の減少、とくに「若者の転出」について考えようと思いました。なぜこのようなテーマ設定にしたかと言いますと、人口の減少は地域の経済に深刻な影響を与え、若年層の減少はその人口減少にさらなる拍車をかけることになると考えられるからです。そこで、函館の若者の現状について調べ、函館市役所の方にお話を聞かせていただきました。



←函館市役所

函館の人口減少の現状

昨今、日本の地方が抱える課題として「人口減少」が挙げられますが、この函館も例外ではありません。函館の人口は年々減り続けています。さらには転出超過が続いているおり、とくに、十五～二十四歳の年齢層に極端な転出超過があることがわかつています。（函館市「函館市人口ビジョン」より引用）

若者の転出には様々な原因がありますが、函館については、進学や就職時に大都市圏に転出することが大きな要因であるとされています。

そこで、函館における若者の転出にはどのような原因は何か、さらには、それに対してどのような対策をとっているかなど、函館市が令和四年度に行つた「函館での就職に関する若者の意識調査」の分析や実際に市役所の

職員さんにお話を聞かせていただき、私たちなりに調査をしました。

函館での就労の意識とは

「函館での就職に関する若者の意識調査」から見える若者の就労意識ですが、ここでは、①函館で働きたいと思う高校生・大学生、②函館で働きたいと思わない高校生・大学生、③若手正規従業員を採用したいと考えている函館の企業、以上の三つに分けて記述していきます。

まず①についてです。函館で働きたいと思う人の割合は高校生・大学生ともに約二割となつております。函館の若者の五人に一人しか残らないということになります。私個人の意見としては低いと感じました。そして、函館で働きたいと思う人の中でも、函館での就労に直接かかわるであろう「やりたい仕事がある」という意見は、高校

生では約二割、大学生では約一割とこれまた低い数値となっていました。

そして②についてです。函館で働きたいと思わない人の割合は高校生・大学生ともに約半数となつております。とても多く感じました。そして、そのうちの半数以上が理由として選択しているのが「自分がやりたい仕事や働きたい職場が少なそう」や「業種や職業が限られ、就職先の選択肢が少ない」という項目でした。さらに、気になつたこととしては、高校生・大学生がどれほど函館の企業を認知しているか、ということです。実際に、大学生が就職先を検討する際に活用する情報源として、「学校の就職支援部署、教職員のアドバイス」や「マイナビ・リクナビ・ジョブキタなどの民間の就活サイト」が半数以上を占め、市が運営する「函館しごとネット」を活用するという声は約三%と非常に少なかつたです。このこ

とから、そもそも函館にある企業が函館の若者に認知されていないのではないかと考えました。

一方で、「こうすれば函館の企業も就職先の候補になる」という声も半数以上の大学生からありました。それは、「奨学金返金支援制度のある函館の企業」です。アンケートに回答した約六割の高校生は進学先で貸与型奨学金を利用する予定があり、大学生のうち約六割が実際に利用しています。支援制度があることによって半数以上が候補として考えることは、函館での就労に大きくかかわってくると思いますが、この点を踏まえて③を見てみましょう。

③についてです。函館における企業の中で、採用に関する課題として最も多い意見は、「求人を出しても応募がない、エントリーが少ない」といったものでした。一

方で、奨学金返金支援制度については、「市が企業とともに奨学金返還の支援を実施する場合、同制度を活用しようと思いますか」という質問に対して「妥当な額なら活用したい」が約二割と意外にも少なく、「活用しようと思わない」が約三割という結果でした。このように、学生側と企業側で奨学金返金支援制度に対する意識が異なっていることに対し、市はどのような対策を行っていられるのかが気になりました。

函館市役所の山田様へのインタビュー

そこで私は函館市役所経済部雇用労政課の山田様にお話を聞かせていただきました。

まず、就職を希望する高校生に対して、函館市では新規高卒者面接会や説明会をハローワークとの共催により開催し、函館の企業の認知に繋げているそうです。令和5年度の説明会の参加者数は約二百六十人となつているところで、函館市の高校生は、現在、一学年に約二千人、そのうち約二割が就職するため、参加率は比較的高いといえます。

さらには、高校生に向けたPRをもつと進めることで、進学した後の就職活動の候補にしてもらえるように考えているそうです。具体的に行っていることとしては、

五～六年ほど前から市が開催している高校生向けの仕事体験イベントや今年から市が主催する高校生向けインターンシップ事業があります。高校生の多くは進学しますが、大部分は札幌や東京などの都市に出てしまうため、その人たちが戻ってこない場合には市の人口減少は改善されないので、しかし、出ていった人に向けたPRは容易ではないため、高校生の頃から函館にある企業を知る機会を増やしたいそうです。

次に、奨学金返金支援制度について、函館市はどのような働き掛けを行っているのでしょうか。函館市の奨学金返還支援事業は、函館市内の登録企業に就職・転職した方を対象に奨学金の返還を支援する、といった内容の事業となっています。支援額としては、市が返還額の三分の一、企業が返還額の三分の一以上となつており、市からは五年間で最大百二十万円の支援を受けることが

できます。学生の立場からすると、とてもありがたいものです。現在では市内百一社が登録してくれているそうです。これからもより多くの企業に活用していただきたいと考えているそうです。また、函館や札幌、東京の大学を通じて、大学生に対しても制度をより広く周知しようとしているそうです。



←函館市経済部雇用労政課様

最後に、函館に「やりたい仕事がある」と回答した学生の割合の少なさに対し、企業誘致の事業のお話を聞いていただきました。市でも企業誘致の取り組みは進めていますが、実際に誘致に成功した事例も出てきています。近年の企業誘致としてはIT関係が比較的多いとのことで、IT関係はリモートワークなどの働き方がしやすく、仕事をする先場所を選ばないので、函館に事務所を設立したい面があるそうです。大学生がこうした企業を就職先として考えるならば、地元に残る可能性がありますが、現状では、まだまだ都市部の大規模な企業への就職を希望する傾向が強いそうです。

市としては、そこからもう一つ深堀をして、若者が函館を選ぶうえで、どのようなことを重視しているかという点の把握に努め、それを踏まえた採用活動やPRを行なうように企業側に促していくことを考えているとのことです。

最後に、函館に「やりたい仕事がある」と回答した学生の割合の少なさに対して、企業誘致の事業のお話を聞いていただきました。市でも企業誘致の取り組みは進めていますが、実際に誘致に成功した事例も出てきています。近年の企業誘致としてはIT関係が比較的多いとのことで、IT関係はリモートワークなどの働き方がしやすく、仕事をする先場所を選ばないので、函館に事務所を設立したい面があるそうです。大学生がこうした企業を就職先として考えるならば、地元に残る可能性がありますが、現状では、まだまだ都市部の大規模な企業への就職を希望する傾向が強いそうです。

市としては、そこからもう一つ深堀をして、若者が函館を選ぶうえで、どのようなことを重視しているかという点の把握に努め、それを踏まえた採用活動やPRを行なうように企業側に促していくことを考えているとのことです。

おわりに

今回の調査やインタビューを通して、人口減少や高齢化が進行する中で「若者の地元定着」が大きな課題となつていることを再確認し、行政の現場における政策形成や課題対応の具体的なプロセスを深く理解することができました。さらには「就職＝ゴール」と考えているのではなく、「その土地で働き続けること」が真の定着につながるということを聞き、市役所という機関が「地域の未来を創る現場」であることを実感しました。

今後、函館に生きる者として、自分自身がどのように函館と関わっていくか、私たちの将来についても考える機会にもなったと思います。

【ご協力】

函館市経済部雇用労政課 山田様

【参考資料】

函館市「函館市人口ビジョン」
函館市「函館市人口ビジョン」

函館市「若者の地元就職促進事業調査結果報告書」
2023022100075_hk_docs_2023022100075_files_hokoku
sho-summary.pdf

函館の飲食店事情



金 優希

はじめに

みなさん、外食は好きですか？ 私は好きです。よく新しいお店を開拓しています。函館には、魅力的な飲食店がたくさんありますよね。

しかし、私には、函館の飲食店を巡る中で疑問に思つたことがあります。

函館の中心市街地（駅前や五稜郭周辺など）には、市民が気軽に入れるようなお店が少ないのではないか？

函館は観光地として有名なまちで、多くの観光客が訪れますよね。駅前や五稜郭周辺は特に多くの人が集まる場所です。これらの地域には、観光客向けのお店や居酒屋が多く、市民が気軽にランチできるような店が少ないのでないか、と私は感じたのです。私の思う気軽に入れる店とは、チエーン店のようにリーズナブルな価格で、老若男女問わず入りやすいお店です。そこで、函館の飲食店の現状や市の取り組みについて調べてみるとことになりました。

インタビュー

取材のために私が向かったのは、函館市役所です。函館市経済部商業振興課の坂田様、米谷様にお話を伺いました。

飲食店の現状

実際、函館駅前や五稜郭周辺には、市民がランチに気軽に入れるような飲食店は少ないのでしょうか。

令和五年度 空き地・空き店舗等現況調査集計表を見てみると、函館駅前・大門地区では、昼間飲食店は49軒、夜間飲食店は155軒。本町・五稜郭・梁川地区では昼間飲食店は67軒、夜間飲食店は682軒となっていました。昼間飲食店も多くありますが、やはり夜間飲食店が目立つかなという印象があります。

函館市の思い

坂田様・米谷様によると、市が飲食店を誘致することはなく、どのような店にするかは民間の事業者に任せているそうです。特に駅前は交通の便が良く、多くの観光客が訪れる場所なので、観光客のニーズが高い店が多くなります。それらの店によって、まちが賑わうこととは市にとってもうれしいことなのだそうです。

市民が望む施設とは？

飲食店の直接的な話題からは少しそれますが、みなさんは「棒二森屋」をご存じですか？函館駅前にあった百貨店です。現在は閉店してしまいましたが、その跡地の再開発が進められています。

その中で、市民や市外の人に対してアンケートが実施されました。どのような公共施設があつたら「利用したい」と思うか、この公共施設を「どのように使いたいか」を聞いたところ、それぞれ「市民や観光客がくつろぎ、憩う空間」、「市民も観光客も参加できるイベント」という回答が一番多いものでした。

市民にとつても、函館駅前は観光客が多く集まる場所という認識が強いのです。市民にそういう意識があるため、私の予想とは反対に、「もっと市民向けの店が欲しい」というような要望はあまり寄せられないそう



設問3 この規模の中で、どのような公共施設があつたら「利用したい（利用する人が多い）」と思いますか。（複数回答可（最大3つ））

どのような施設を利用したいか（利用する人が多いと思うか）については、「市民や観光客がくつろぎ、憩う空間」と回答した割合が最も高く 53.6%，次いで「学習スペース」が 45.4%，「高速ネットワーク環境」が 36.4% となっています。

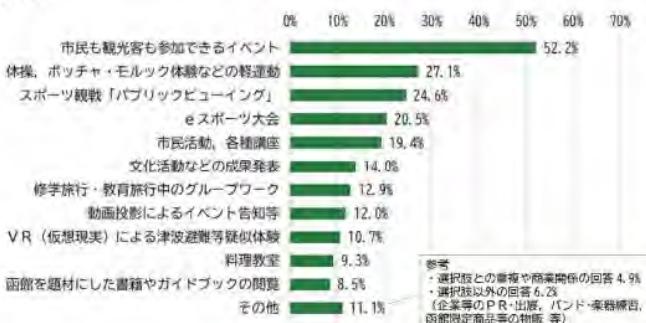
年代別では、「市民や観光客がくつろぎ、憩う空間」が、30代の 44.8% を除き、全年代で 5 割以上となっています。また、20代以下は、「学習スペース」が最も高く 57.7% となっており、その他の年代よりも高い割合となっています。



**設問4 公共施設を「どのように使いたい」、「使えたら良い」と思いますか。
(複数回答可（最大3つ）)**

使用方法については、「市民も観光客も参加できるイベント」と回答した割合が最も高く 52.2%，次いで「体操、ポッチャ・モルック体験などの軽運動」が 27.1%，「スポーツ観戦「パブリックビューイング」」が 24.6% となっています。

年代別では、「市民や観光客も参加できるイベント」が、20代以下の 49.9% を除き、全年代で 5 割を超えており。また、「市民活動、各種講座」、「文化活動などの成果発表」は、70代以上で約 4 割となっており、年齢が上がるに従って高い傾向となっています。



市民の要望

では市民の要望にはどのようなものがあるのでしょうか。たびたび寄せられる意見には、全国チェーン店に出店してほしいというものが挙げられるそうです。

たしかに、私も函館には全国チェーンの飲食店があまりないようを感じます。函館に全国チェーン店がないのはなぜなのでしょうか。

大きな理由には、函館の立地が挙げられるそうです。函館は北海道の中でも端のほうにあり、流通の便があまりよくありません。また、他の主要都市から離れた位置にあるということも関係しています。

市としてできることは?

市民の要望に応えるために市が取り組んでいることはなんでしょうか。企業を直接誘致するということは市ではできないのですが、函館市をみんなが集まる場所、にぎわう場所にすることで、企業が出店しやすうと思えるような地域の基盤を作ることが市にできることなのだそうです。前述した駅前地域の再開発も、その一つなのです。



おわりに

私の個人的な疑問から始まつた調査でしたが、飲食店のことだけに限らない、市民の思いや市の取り組みについて知ることができたのは大きな収穫だと感じます。

市が行う、まちを活性化するための取り組みは、飲食店には関わりがないよう思っていましたが、実はぎわうまちとしての基盤を作ることが、飲食店にも関わってくる大切なプロセスなのだとわかりました。取材に行かなければ知ることができなかつた、意外なつながりでした。基盤を作ることから、市民に愛されるお店は生まれるんですね。

（）協力いただいた坂田様・米谷様ありがとうございました。

最後まで（）覗くださりありがとうございました。

【（）協力】
函館市経済部商業振興課 様

【参考】

函館市「函館駅前棒」森屋店跡地における公共施設整備の検討について」

<https://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/202403250039/>

まちに寄り添う新しい市電の形



みなさんは函館の市電を利用したことがあ
りますか？

観光で訪れた方も、地元に暮らす人も、多くの方が利用する「函館市電」。ゴトゴトと坂をのぼり、海辺を走るこの路面電車は、実は 100 年以上の歴史を持つ全国でも貴重な存在です。現在は 2 系統（谷地頭行き・どくく前行き）が市内を結び、朝から夜までほぼ 10 分間隔で運行中。特に五稜郭や函館山方面に向かうにはとても便利で、交通系 IC カードも使えます。最近ではスマホで位置がわかる「イカすロケ」も導入され、観光客だけでなく地元の交通手段として使われています。そんな市電の魅力は多彩な車両があることです。昭和レトロな丸窓の電車からバリアフリーに対応した低床車両などさまざまである。



函館のやさしい市電、低床車両って？

函館の街を走る市電。そのなかでも、ひときわ静かに、なめらかに走る“ちょっと未来っぽい”車両に気づいたことはありませんか？

あれが、函館市電の低床車両。正式には「9600形（9601号）」という名前の電車です。

この低床車両、段差が少ないフラットな構造が特徴で、ベビーカーや車いすでも乗り降りがしやすいように設計されています。入口から車内までまっすぐに歩ける開放的なつくりで、高齢者や足腰に不安のある方にもやさしい「ユニバーサルデザイン」なのです。

見た目もスタイリッシュで、白とシルバーを基調にした車体は、街なかでひときわ目を引きます。導入は2011年。函館市電とし

ては久しぶりの新型車両であり、長く親しまれてきたレトロ電車と共に存しながら、日々の暮らしを支えています。

今回は、その運行・整備を担う函館市企業局交通部を訪ね、施設課車両担当の澤田さんと、同じく企業局交通部安全管理課の武田さんに運営の現場やこれからの中電についてお話をうかがってきました。



函館市企業局交通部とは？

市の直営で運営されている公共交通機関です。歴史あるこの市電を、運行・整備・ダイヤ調整・施設管理まで一手に担っているのがこの部署です。運転する人や車両を整備する人はもちろん、電気や線路の管理をする人、それに運行の予定を立てる事務の人など、多岐にわたり、市電も実は日々の緻密な管理と現場の技術に支えられているのです。今回は函館市企業局交通部をお伺いしてきました。

導入背景

交通部の担当の方に伺ったところ、低床車両の導入とあわせて、市電全体のバリアフリー化も着実に進んでいるそうです。

「やはり高齢者の方が増えてきたこと、そしてバリアフリーへ

の関心が高まってきたことが背景にあります」とのこと。
その中で、段差を少なくして乗りやすさを重視する設計が求められるようになり、9600形のような低床車両が導入されたと言います。

バリアフリーへの取り組み、現場の声

あわせて、電停（停留所）の整備も進行中。

「現在、11の電停でスロープ化を実施しており、合計で22か所にのぼります。点字ブロックも12の電停・22か所に配置されています。将来的にはもっと多くの場所で対応していくようになります」と話してくれました。

また、安全に乗り降りできるよう、“安全地帯”と呼ばれる乗降スペースの整備も順次進めているとのこと。市電を利用するすべての人にとって、やさしい交通手段であり続けようとする姿勢が伝わってきました。

近年は外国人観光客にもわかりやすい市電を目指して、放送装置や行先表示、料金表示の多言語対応が進められているそうです。また、電停についても「どこで降りればいいのかわかりづらい」という声に応えて、すべての停留所に番号を振る工夫がされています。地名にくわしくなくても、番号でたどれるようになっていて、観光客だけでなく地元の方にも好評のこと。細かなところにも目を配りながら、“だれでも使いやすい市電”を目指す姿勢が感じられました。

声を聞いて、変えていく——市民とつくる函館市電

函館を訪れる観光客が増える時期、特にクルーズ船の寄港や修

学旅行シーズンなどには、市電の利用者数が普段よりも大幅に増えます。その結果、普段の時間帯に乗ろうとしても「満員で乗れなかった」「乗車できずに待たされた」といった声が利用者から寄せられることもありました。

こうした声を受け、函館市企業局交通部では、実際に市電に乗れなかっただけの人の数や時間、停留所ごとの混雑状況を細かく記録する取り組みを始めています。担当者は「乗れなかっただけの人数やどの停留所で残ったかをメモし、データとして蓄積しています」と話します。

このデータをもとに、利用状況を分析し、必要に応じてダイヤの改正を定期的に行うことで、よりスムーズに市電を利用できるよう努力しています。混雑時の臨時便の検討や、時間帯ごとの車両増便など、利用者の声に応える形で柔軟に対応しているのです。

おわりに

今回私たちは「函館に生きるモノ」というテーマのもと進めていく中で、函館の市電について取材をしました。取材をしていく中で、函館市電は長い歴史の中で多くの人に愛され、街の風景の一部となっていると同時に、利用者のために日々工夫や努力が続けられていることがわかりました。今後は令和9年度から新たな低床車両の導入計画もあり、これからも利用するすべての人が快適に乗れるよう、さまざまな取り組みや改善が進められていくでしょう。

最後に、今回取材に協力していただいた函館市企業局交通部様、ありがとうございました。

動物との暮らし

川地海生

まえがき

今回、私たちの雑誌のテーマは「函館に生きるもの」です。これは函館に暮らす人や物にフォーカスし、今後の函館の持続可能性について考える。それら全てを合わせて「生きるもの」と捉えました。私は新設されたセンターを有効利用してもらいたい、函館含め道南地域に住む動物が一匹でも多く幸せになってほしいと考え記事を作成しました。

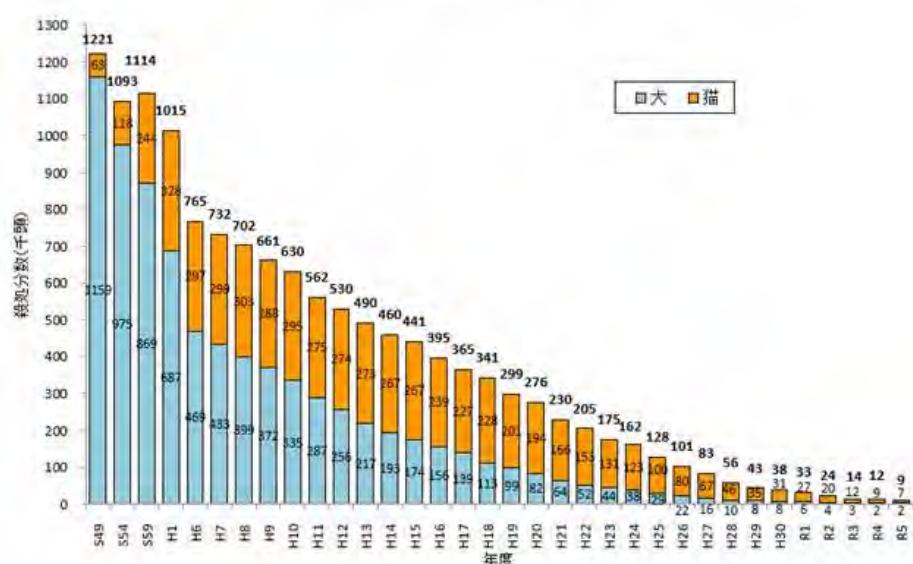


皆さん、動物は好きですか？私は実家で猫を2匹飼っていますがとても可愛いため見るたびに癒されています。ペットとの暮らしは時間とお金はかかるものの、それ以上の幸福感を得ることができます。一方で飼われずに野良のまま命を落とす、または飼育場所がなくなりやむを得ず殺処分されてしまう動物も少なくありません。

環境省のデータによると、全国の犬・猫の殺処分数は年々減少傾向にあります、令和2年時点で約2万匹の犬や猫が殺処分により命を落としています。そんな動物たちを減らすために令和6年11月、函館市にも函館市動物愛護管理センターが開設されました。

そこで今回、市立函館保健所生活衛生課環境衛生担当様にお話を伺ってきました。前提として、函館市動物愛護管理センターは函館市が民間事業者に一部の業務を委託して運営しており、センターの業務は、現在、動物愛護団体であるニャン友ねっとわーく北海道様が行っています。

全国の犬・猫の殺処分数の推移



出典 環境省 統計資料 犬・猫の引き取り及び負傷動物等の取容並びに処分の状況
https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/aigo/2_data/statistics/dog-cat.html

貴重なお話を伺つてきました。今回はその内容

を抜粋してまとめました。

・センター新設に至つた経緯は？

令和元年に「動物の愛護及び管理に関する法律」（動物愛護管理法）が改正されました。この改正により各都道府県等における動物愛護センターの業務が明記されたことから、令和五年度から道内四箇所で動物愛護管理センターの運用開始が決まりました。

北海道と函館市が連携協力して令和六年十一月に開設されたのが北海道動物愛護センター（道南センター）兼函館市動物愛護管理センターです。そのため函館市ののみならず道南地域の動物も飼養されています。

・譲渡にされた動物の数は？



函館市のセンターからは犬四頭、猫八頭が譲渡された。二ヶ月に一回ほどのペースで地域の動物愛護団体との合同譲渡会を開催している。譲渡はいつでも受け付けているため興味のある方はセンターに連絡をいただき見学にきてもらいたい努力をする。

これらの点を踏まえて飼い主である責任を持つて飼うこと。

・新設による影響は？

・野良犬・野良猫を増やさないために
行っていること、私たちにもできるこ
とはあるか？

函館市の場合、センターの業務は動物の飼養や譲渡への対応、動物の愛護及び管理に関する普及啓発活動。保健所の業務は動物の引き取りに関する相談対応、飼い主への返還と業務内容が分かれている。
しかし、市民の方が全ての業務をセンターが行つていると誤解し、センターへの動物の引き取り要請が急増してしまった。

動物の遺棄が増加しており、原因にはセンターが新設された影響が少なからずあるかもしれない。「センターがあるから」といった安易な気持ちで動物を捨てることを助長しているのではないか？

現在、函館市に生息する野良犬の数はほぼ〇に等しい。
過去に狂犬病予防を理由に多くの犬が殺処分されてしまつた。

野良猫に関しては不妊去勢手術を行うことで増やさないようにする。可愛いからといって餌付けをしない。

市内で地域猫活動を行う団体には助成金が出されている（上限額..メス一頭あたり一万円 オス一頭あたり六千円）。



保護猫紹介コーナー

取材日時点（7月11日）で犬1匹、猫10匹+子猫数匹が飼養されていました。

犬の方は新たな飼い主が見つかる可能性が高いとのことだったので今回は猫のみ紹介させていただきます。



お気に入り。理由は実家の猫に似てるため。ちょっと高齢にゃんこですが元気に歩き回っていました！



元気一號。積極的に遊びにきました。見てる側も元気をもらえます！



寝るのが好きな子です。一緒にのんびりするにはちょうどいいかも！？



元気二號。名前のとおり熊のような体色の子です！

あとがき

今回取材をさせていただいた感じたことは、函館市動物愛護管理センターはまだ開設して一年も満たないため試行錯誤の段階であるということです。当初私もそうでしたが、動物愛護管理センターができるということは全ての業務をセンターで行っていると誤解していました。実際、札幌市や旭川市のセンターでは市が直営でセンターを運営しているそうですが、函館市はそうではありません。これは取材を引き受けてくださった方もおっしゃっていて、市民の方へこのセンターの在り方があまり伝わっていないと感じるそうです。市のホームページを確認すると、犬・猫の引取に関する相談は保健所へ連絡とのっていましたが、センターへ引き取りの連絡が相次いだのがその証拠だと思います。

とはいって、この約半年で計十二匹の犬、猫が譲渡されたのはうれしい限りです。少しでも興味を持った方は是非センターを見学してほしいです。実際に見る動物はとても可愛いし魅力的です。そしてあわよくば新たな飼い主となってあげてください。

最後に、今回取材に協力していただいた市立函館保健所生活衛生課環境衛生担当様、本当にありがとうございました。

編集後記

川地海生

この度は mimiz を読んでくださりありがとうございました。活動が行き詰まつたり、発行も当初の予定から大幅に遅れてしまったりと満足いく結果ではなかつたですが、メンバー全員で協力して何かを作り上げられたのはそれだけで意義があると思います。最後に、私達の活動に協力していただいた皆様、本当にありがとうございました。

金 優希

何から何まで自分たちで決めて活動するのは思った以上に大変でしたが、活動の成果を1冊の雑誌にまとめることができてすごく達成感があります。計画通りにいかないこともありましたが、いい経験になったと思います。たくさんの方にご協力いただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

清水 癒月

この度は MIMIZ を読んでくださりありがとうございました。前期の活動を通して一から記事を作り上げる事の大変さと同時に、プロジェクトのメンバーで一つの雑誌を形にできた事、とても嬉しいです！後期も引き続き自分たちらしい雑誌を作っていくよう励んでいきます。

山田 敬汰

今回このような雑誌を一から作成するのは初めてで、何もかもを自分たちで企画し作業を進めていくことの難しさを知りました。とくに「ホウレンソウ」の大切さを改めて実感しました。情報を共有することを少しでも怠ってしまうと、チームのみんなに迷惑をかけてしまうのみならず先方にも迷惑をかけてしまうため、たくさんの人々に協力していただいていることを忘れずにこれからも精進したいと思います。

小野 月滉

函館の農業という大きなテーマで取材をしてきて、函館に暮らす方々の生活の意識が少しでも変わっていたらいいなという気持ちで進めてきましたが、私自身の考え方方が大きく変わったと実感しています。後期の地域プロジェクトではより掘り下げた函館の農業を紹介していきたいと考えているので、ご期待ください。

高橋 翼

今回、私たちは函館に生きるものというテーマでそれぞれの調査や取材を元に各々の記事をまとめました。この記事作成という機会は、今後の私たちの活動で大きな糧になったのではないかと感じます。ご協力していただいた取材先の皆様、誠にありがとうございました。

取材先一覧

『気に入っていますか函館野菜の生息地』
 農林水産省北海道農政事務所函館地域拠点様
 『函館に残らない若者』
 函館市役所経済部雇用労政課様
 『函館の飲食店事情』
 函館市経済部商業振興課様
 『まちに寄り添う新しい市電の形』
 函館市企業局交通部安全管理事業部管理担当様
 『動物との暮らし』
 市立函館保健所生活衛生課環境衛生担当様

ご協力いただき誠にありがとうございました！

編集室員

川地 海生

小野 月滉

山田 敬汰

金 優希

清水 癒月

高橋 猩

指導教員

畠山 大

藤井 麻由

各種リンク

編集室
instagram

過去のMIMIZ一覧



北海道教育大学地域政策グループ地域プロジェクト

道南地域くらし応援プロジェクト MIMIZ 編集室

〒040-8567

函館市八幡町 1-2 北海道教育大学函館校

畠山研究室 TEL/FAX 0138-44-4248